

「市長記者会見」の概要

■日時 令和4年2月21日（月）午後1時30分

■会場 千曲市役所 302 中会議室

■報道出席者

信濃毎日新聞、ちくま未来新聞、(株)信州ケーブルテレビジョン、屋代有線放送、読売新聞、新建新聞、長野工業経済新聞、長野市民新聞、時事通信社

■質疑応答

【令和4年度千曲市当初予算（案）の概要】

○P.2 「住みよいまちづくり」戸倉駅バリアフリー化事業

問 戸倉駅バリアフリー化事業の具体的な内容は。

回答 高齢者や観光客の利便性の向上を図るため、戸倉駅にエレベーターを設置するもの。

問 エレベーター以外のスロープの設置などのバリアフリー化は行わないのか。

回答 エレベーターの設置は、1番線と2番線を跨線橋で結ぶ形となっていることから、通路など関連する箇所も含めバリアフリー化を行う予定。ただし、跨線橋の部分については、令和5年度に手摺りの二重化や美装化を実施する予定。

○P.3 「自治体DX（デジタル技術による変革）の推進」住民参加型システム構築事業

問 新しい住民参加型システムとは具体的にどのようなものか。

回答 アプリを利用して、タブレットやスマートフォンなどで、クイズ形式により防災を学んでもらうとか、このような取り組みをしてほしいなどのアンケートを取るなど、様々な方法で、行政の政策に関心を持っていただく。そうした中で、子ども達からお年寄りまで、幅広い年齢の方々の意見を聞き、トータルでまちづくりを考えるための政策形成に活用したい。住民参加型システムは、そういうものを総称している。

問 予算額850万円はアプリの開発費ということか。

回答 開発費ではなく、民間のアプリを市が導入するための費用。

【令和4年4月組織改正について】

問 「保健予防担当部長」は新設する「感染症対策室」を、「ふるさと振興担当部長」は新設する「ふるさと振興課」を、「危機管理防災担当部長」は現在の「危機管理防災課」を、それぞれ管轄するということが良いか。

回答 そのとおり。

問 「ふるさと振興担当部長」について、伸び悩むふるさと納税の増収を戦略的に進めるとあるが、何が伸び悩んでいるのか、また、その原因は。

回答 県内の他の自治体のふるさと納税がかなり伸びていることから、更に強化したいということ。現在も人気のある返礼品もあるが、更に魅力ある返礼品の研究・開発や地域資源を活かした体験型の返礼品なども含め、まだまだ伸びる要素があることから、伸び悩むふるさと納税の増収を戦略的に進めると表現させていただいた。

問 ふるさと納税額の数字的な目標は掲げているのか。

回答 令和3年度の決算見込みでは2億1千万円程を見込んでいる。令和4年度はそれ以上ということになるが、魅力ある返礼品の研究・開発や自治体には無い営業的な要素も含め、メイドイン千曲の品物を生産者の皆様に提供いただく形も取っていきたい。

【市政全般について】

問 令和4年度の予算編成や組織改正については、小川市長のカラーが出ているように感じるが、その手応えとやりきった感はどうか。

回答 令和4年度の予算編成等については、かなり自分のカラーを出したと思っている。やりきった感については、まだこれからであり、市民の皆さんと議会と行政で作上げた総合計画も3月議会に上程することから、承認いただければ、総合計画に掲げた将来像に向かってより良いまちづくりを進めたい。

問 総合計画について、審議会より最終答申がなされ、3月議会に上程されることになっている。今回の審議会の委員は公募がかなり増えて、活発な審議がなされたと聞いているが、審議会委員に対する市長の受け止めと考えは。

回答 公募委員については、応募いただいた方全員を審議会委員に委嘱させていただいた。委員の皆さんはとても意欲的で識見のある方が多く、常に活発な意見が交わされるなど、専門部会も予定した回数より多く開催された。素案については、かなり職員が手づくりで作成しこともあり、市民の皆さんと一緒に作り上げた計画案だと自負している。また、議会の特別委員会もほぼ全員の議員に参加いただいたことから、そういった面でも議会と行政と市民と一つになって作り上げた計画案だと認識している。

これを形にしていくことが、私に課せられた使命だと思っている。

審議会の皆さんをはじめ、多くの方々にご協力をいただいたことに対し、改めて感謝申し上げます。

終了 午後2時28分